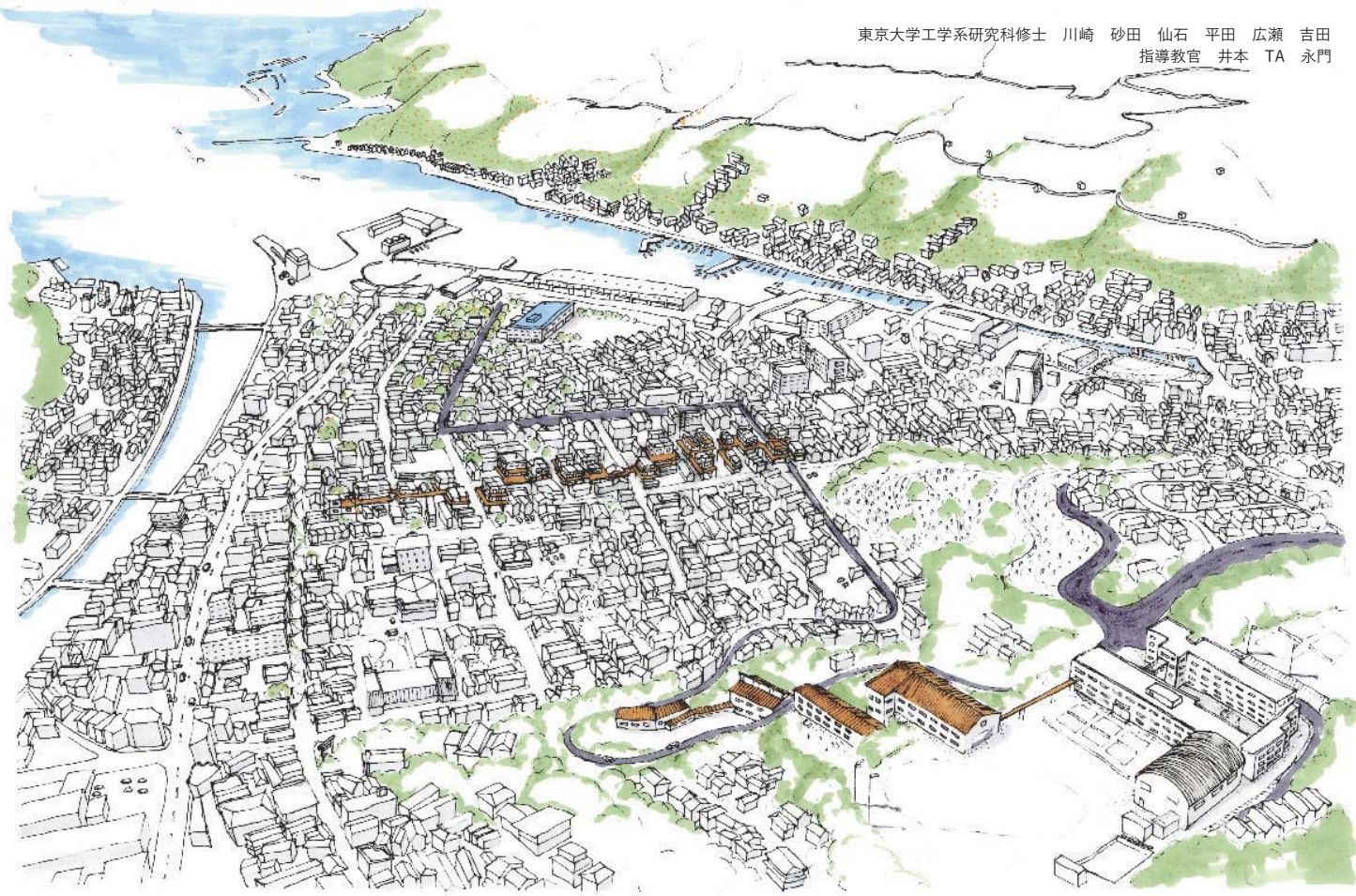


八幡浜白浜地区事前復興計画 - 二つの海岸線に沿う暮らし -

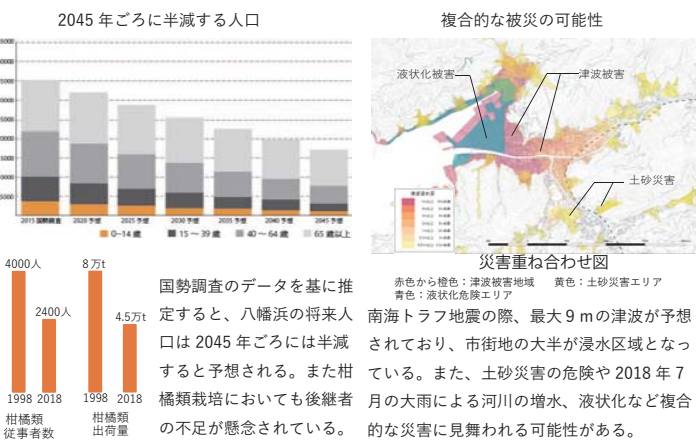


現在の魅力

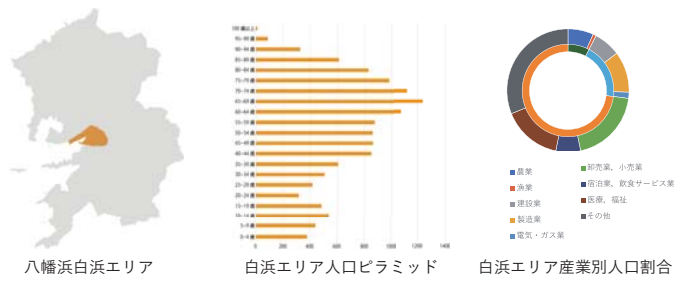


八幡浜の魅力の一つである多様な産業の発達には歴史の経緯を伴ったものである。産業の発展が交通網を必要とし、交通の結節点であるからこそ多くの人が八幡浜を訪れている。八幡浜の魅力はそれぞれ関連しあっており、この豊かな魅力を取り入れた事前復興を計画する。

将来の課題

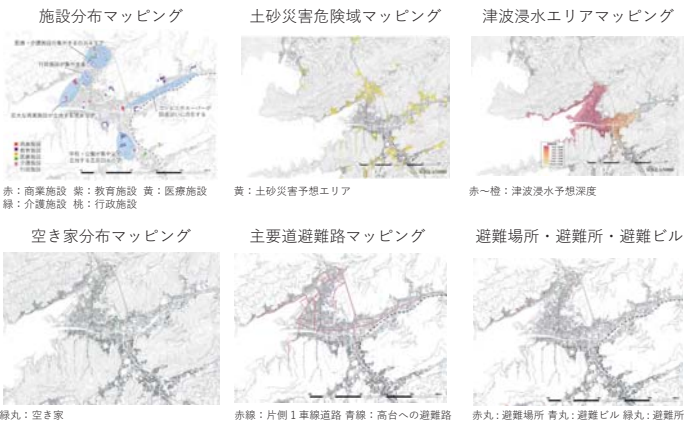


提案対象地：八幡浜市白浜エリア

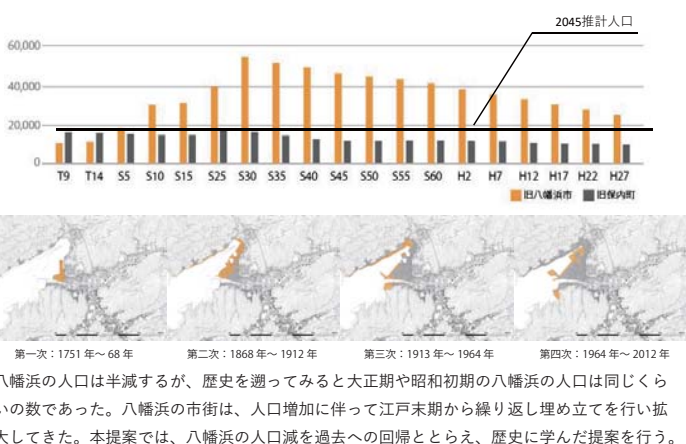


本提案は、八幡浜白浜エリアを対象地としている。白浜エリアは、八幡浜市の中心的市街地であるとともに、海に面し津波被害の大きいエリアでもある。八幡浜全体の人口は3万5千人程度（2017年時点）であり、高齢化率は37.5%となっている。産業に関しては、柑橘類の栽培や漁業など第一次産業とその加工業が盛んである一方で、医療福祉をはじめとする第三次産業従事者も多く、多様な産業の従事者が存在している。

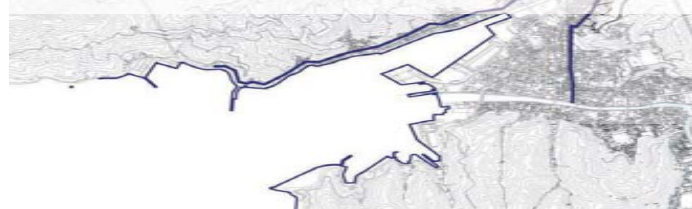
地図データ白浜エリア



視点：過去に学ぶ解決策



提案：二つの海岸線に沿う暮らし



一つ目の海岸線：埋め立てによって作られた現在の海岸線
産業の中心軸

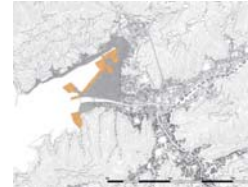
二つ目の海岸線：埋立が始まる以前のかつての海岸線
生活の中心軸

↓

復興時にはかつての歴史を繰り返すようにこの二つの海岸線から再建が始まる

提案の3つの視点

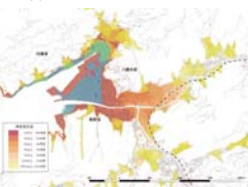
歴史



生活



災害



現在の海岸線とかつての海岸線の二つを軸を強化するという本提案は、かつての海岸線という歴史性、商店街の軸線という現在の生活、そして非埋め立て地と液状化対策後の埋め立て地という、液状化を免れるエリアへの注力という三つの視点をもった提案である。

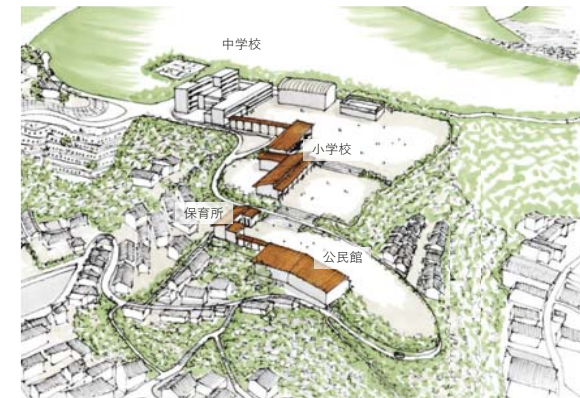
PLAN1 愛宕山：教育の中心地へ



少子化に伴う小中学校の統廃合に合わせて教育機能を高台に集約化

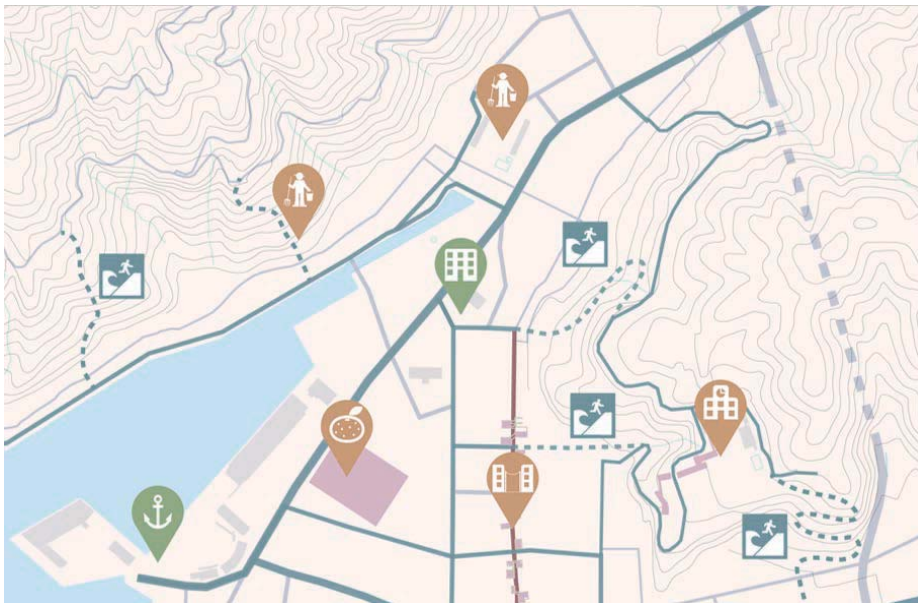


小中併設校化、併せて公民館を計画、地域に開かれた学校へ



公民館を入れ特別教室などのイベント活用を行なうことで、地域に対して開き愛宕山にのぼる習慣をつくっていく

提案全体像



PLAN3 市街地：地場産業との接近



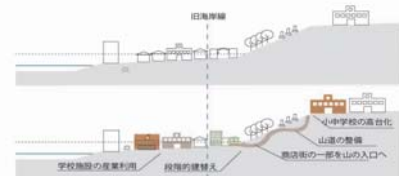
選果場を港湾部に移転し産業を集約。周辺には加工・体験施設を立地させ住宅地に事前に産業を埋め込む

主要産業施設の連続が観光客の回遊を生み、地域を活性化させる

空き地には加工系施設の倉庫や駐車場、共有スペースが入るほか、順次緑化を施し緑のひだ”を形成する



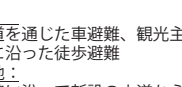
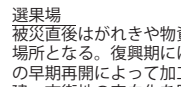
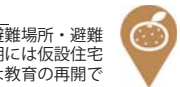
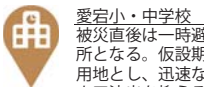
断面計画図



提案時間軸



災害への対応



PLAN2 商店街：旧海岸線を生活軸に



かつての海岸線に沿ったリニアな建て替えにより、商店街は徐々に津波に耐えうる RC 三階建て以上の建物へと徐々に変容する。

空いた床には、高齢者のための機能と宿泊など新たな産業の誘致を行い生活軸を再び呼び戻す

建て替えの様子

老朽化とシャッター RC フレーム 3 階 モジュール化でター街化 建以上に、空き 連続可能に、仮家から建て替え 設・復興住宅化



既存の商店街のサイズにあわせて建て替えを行っておくことで、被災後にも生活に寄り添ったスケールの仮設住宅や復興住宅となり住み継がれる

PLAN4 向灘地区：みかんを学び教える



土砂災害警戒区域を避け山道と山小屋を建設。低地部で集合→安全な避難路から高台へという避難を行う。

白浜小学校統合後は既存の校舎を用いて『みかんの学校』を開校し、長期滞在を前提とした農業体験を行う。山小屋は平時はこれらの教育用途で用いられる。

